

CONTENTS

〔特集〕
地域連携の未来を見つめて

[View of This issue]	
地域連携の重要性 — 地域圏大学の使命 —	01
● 理事・副学長 鈴木宏治	
[特集 / 対談]	
地域連携の未来を見つめて	02-07
● 伊賀市長 内保博仁 ● 学長 内田淳正 司会 農学博士 前田広久	
[RESEARCH FRONT 1]	
学術情報利用の変化を実証的に明らかにし、 大学図書館の新たな可能性を探究する。	08-09
● 人文学部准教授 小山登司	
[RESEARCH FRONT 2]	
地道な方言調査を通じて 学際的研究の可能性を発見。	10-11
● 教育学部准教授 余 健	
[RESEARCH FRONT 3]	
人と機械と環境に優しい システムの構築を目指して。	12-13
● 大学院工学研究科准教授 残間忠直	
[RESEARCH FRONT 4]	
コメディカルの立場から メタボに立ち向かう。	14-15
● 大学院生物資源学研究科准教授 青木直人	
[CLOSE-UP Interview]	
誰もが安心できる乳がん診療体制を 三重県全域に築きたい。	16-17
● 医学系研究科教授 小川朋子	
[連載 CHRONICLE OF MIE VOL.4 文学編]	
横光利一、作家が見た欧州と日本。	18-19
● 人文学部教授 尾西康充	
[連載 CHRONICLE OF MIE VOL.4 美術編]	
藤堂高虎像	20-21
● 教育学部教授 山口泰弘	
[三重大大学の目指す社会連携④]	
地域イノベーション学研究科 地域の産業界と連携した教育で 高度な専門的職業人を輩出。	22
[TOPICS]	23-24
三重大大学の研究と研究活動を通じた社会との連携 「野ざらし紀行」の成立 藤堂藩の研究 回転機械設備診断の基礎と応用	
2008年6月～12月 三重大大学の主な出来事	24



地域連携の重要性
— 地域圏大学の使命 —

理事・副学長(研究担当)
鈴木宏治

地域圏大学である三重大学は、大学の使命である教育、研究、および社会貢献における目標を「三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で」と謳っている。

この意味は、教育研究活動の場を地域社会に置き、生み出された成果を地域や国際社会の繁栄と豊かさの実現のために還元するというものである。

本学の第一期中期目標・中期計画における教育研究活動による地域貢献、とりわけ産学官民連携事業は高く評価されており、第二期に向けて、さらなる発展が期待されている。そのためには、教育と研究の成果が地域の産業や文化の発展、健康福祉の向上などにつながるように、大学教職員や学生による住民や関連企業、自治体などとの連携をより一層強化することが重要である。

こうした、地域の産業や文化の発展・振興に寄与する地域連携の窓口として、社会連携研究センター(旧：創造開発研究センター)がある。このセンターには、研究資金の獲得や地域貢献のための多様な活動を支援する社会連携推進戦略室、研究成果を評価・活用する知的財産統括室、ベンチャー起業研究を行うVBL研究戦略室といった多彩な機能があり、また学外拠点としては、四日市市を中心とする北勢地域の企業との連携活動を推進する四日市フロントがある。

そしてこの度、新たな学外拠点として三重大学伊賀研究拠点が創設された。この研究拠点では、三重大学と伊賀市が文化・教育・学術の分野で相互の発展を目指しつつ、環境・食・文化に関する新産業の育成を図ることを目的としており、従来の連携の形を超えた、地域連携の未来のあるべき姿を示すものとなるであろう。

すずきこうじ
医学博士・薬学博士
専門分野は、分子病理学・
血栓止血学・血液凝固学

